

原発のない 安全・安心の松江を



ホームページ・ブログ

尾村としなり

検索



県議会議員

尾村としなり

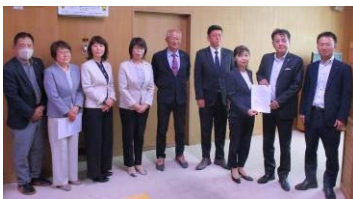
「物価が上がり、生活が苦しい」「原発事故が起きたら逃げられない」——県民の不安、切実な声が寄せられています。

私は一人ひとりの苦しみに思いを寄せて、「大企業優遇」「アメリカいいなり」の国の間違った政治に立ち向かいます。

今後とも毎議会質問に立ち、県民の立場でスジを通して頑張ります。

くらしと命を守る議席です

物価高騰からくらしを守る 県民に安心と希望を届ける政治を



「医療用手袋の入手が困難」(医療関係者)、「シンナーが無く、仕事にならない」(塗装)。イラン戦争が長期化し、物価高騰やモノ不足により医療・福祉の現場、中小業者や農家など幅広い分野で深刻な影響が広がっています。

くらしと経済を守るため、島根県に対し、実態を調査し、緊急対策を講じるよう、強く求めました(写真)。

【島根県に要請した緊急対策】

- ① 生活困窮世帯への直接支援の拡充
- ② 中小企業・小規模事業者への資金繰り支援や社会保険料負担の軽減
- ③ 農林水産業へ肥料・飼料・燃料価格の高騰分の支援
- ④ 医療・介護・福祉分野への緊急支援金の創設、資材価格高騰分の補填制度の導入 など

「原発ゼロ」へ毎議会質問 島根原発2号機 再稼働やめさせよう

福島原発事故から15年。いまだに5万人近い方々が避難生活を強いられています。

今年1月6日には県東部を震源とするM6.4の地震が発生。住民からは「原発事故と地震が重なれば避難できない」との声が上がりました。

それなのに、不正・トラブル続きの中国電力は島根原発2号機で猛毒物質・プルトニウムを燃やす、危険なプルサーマル発電を計画しています。

人々の笑顔と幸せを奪ったのが原発事故。「原発ゼロの松江」へ、力を合わせましょう。



中国電力に申し入れる
県議団ら
(2026年5月15日)

イラン戦争やめよ、9条守れ

憲法を守り生かす決意を訴え
(2026年5月3日)



憲法をいかし、平和な島根を

美保基地、出雲駐屯地の軍備強化ストップ

美保基地への空中給油機の配備拡充、出雲駐屯地の機能強化、雲南市吉田町への自衛隊火薬庫と訓練場の誘致、武器・弾薬輸送に利用できる境港の「特定利用港湾」の指定など、山陰でも軍備強化が進んでいます。

「軍事対軍事」の対応は緊張を高め、島根が攻撃対象となる危険を高めます。憲法9条をいかした平和外交こそ必要です。

住民の声で
県政を
動かす

ブレずにスジを通す 尾村としなり

くらし 物価対策

水道料金値上げストップ 物価高からくらしを守る

松江市や大田市、雲南市など各地で水道料金が引き上げられました。

毎議会の質問で、県が松江市や出雲市、大田市、江津市などに供給している水道水の値下げを要求。

県企業局は「様々な工夫で料金の低減に取り組んでいく」と応じました。



毎議会、質問に立つ

中小企業 農業

三菱農機が撤退—— 雇用と経済ささえる施策を

三菱マヒンドラ農機(松江市)が農業用機械事業からの撤退を発表。日本共産党県議団は①従業員の再就職支援、②事業者への事業継続支援、③税や社会保険料の納税猶予、④機械設備のリース料・家賃への補助を提案。

農業は県の基幹産業であり、生産者に再生産可能な所得・価格を保障すべきです。



中海再生へ県に申し入れ

医療 福祉

医療・介護の現場から悲鳴 ゆき届く支援を

「ある日突然、地域の病院や介護事業所がなくなる」「人手不足も深刻。もう限界」など、現場から悲鳴の声が…。診療・介護報酬の抜本的な引き上げは急務。ケア労働者の処遇改善も待たなしです。

医療、介護、保育、福祉の充実は、みんなの願い。社会保障予算を増やし、暮らしに安心を。



看護の日の集会に参加

教育 子育て

小学校教員の4割が 「休憩できず」—先生増やそう

県教育委員会の調査で「全く休憩できなかった」と回答した教員が小学校で約4割にも上っていることが明らかになりました。

いじめや不登校が増える中、先生が子どもと向き合う時間を確保し、長時間・過密労働を解消するため、①教員の増員、②残業代の支給、③教職員の処遇改善、④全国学力テストの中止を求めています。



教員の増員を求めて教育委員会へ申し入れ

県民のためにトコトンはたらく 日本共産党

多くの政党が高市政権への迎合・協力を強めるも、憲法9条改悪をはじめ、平和・くらしを脅かすかつてない危険が生じています。

日本共産党は党をつくって104年。戦前から命がけで民主主義と自由、反戦平和をブレずにつらぬいてきました。

尾村としなり



願い実現 昨年4月より子どもの医療費助成が拡充され、県内すべての市町村で「高校卒業まで」へと対象が広がりました。議会質問と長年の運動で願いが実り、大きく前進しました。

監視 旧統一協会との癒着や政務活動費の不正受給に対し、疑惑の徹底説明を強く要請しました。



シャープな論戦で
県議会をリード

1962年大田市生まれ▼県立大田高校、北九州市立大学法学部卒▼03年県議選初当選(現在6期目)▼現在、党県議団長、党県副委員長、松江市東津田在住。